2 揺れがおさまったらみんなで助け合う

揺れがおさまったら、お隣同士で声をかけ合いましょう。目の前で起きている被害に即座に対応できるのは、住民のみなさんの「共助」の力です。

火の元を断つ

ガスの元栓を閉めます。ガス臭がしたら窓・ドアを開けて換気し、ガス会社に連絡します。絶対に火は使わないようにします。電気火災を防ぐため、電化製品のスイッチを切りコンセントも抜きます。避難する時は、ブレーカーを切ります。

もし火が出たら

落ち着いて消火器などで消火します。消火できないときは、ドアを閉めて延焼の拡大を防ぎます。煙を吸わないよう口を布で被い、低い姿勢で避難します。

エレベーターの確認

閉じ込められている人がいないか確認します。大きな揺れの後は、点検が終わり安全が確認されるまで使用してはいけません。

落ち着いて避難する

階段で将棋倒しにならないよう、周りに声をかけ合いながら、落ち着いて避難します。火災やガス漏れ、大きな損壊などがなければ、急いで公的避難場所へ向かう必要はありません。

安否確認と避難の支援

集会室などに集まり、分担・協力して各戸の安否を確認します。また、自力で避難することが難しい人の支援を行います。安全のため複数人で協力して行動します。

けが人の手当、搬送

けが人がいれば、安全な場所に移動し、応急手当を行います。

■初期消火が大切

大規模な災害の時には、消防車がすぐにかけつけてくれるとは限りません。有効な初期消火の方法は

・消火器を使う　・バケツなどで水をかける

防火戸は延焼を食い止める設備です。周辺に作動のさまたげになるものを置かないようにしましょう。

■トイレに水を流さない

停電が発生すると、給排水ポンプが使えずトイレの排水ができなくなる場合があります。断水していなかったとしても、配管が損傷し、上層階の住民が流した汚水が下階で溢れたり、逆流したりする可能性があります。配管の不具合がないことが確認できるまでは、トイレに水を流さず簡易トイレを使うようにしましょう。

■地震災害の教訓から

マンションで地震が起こったら、お隣同士が助け合って生活を続けます。ある管理組合では、次のような対応を行いながら生活を継続し、建物の再建を行いました。

▶玄関が開かない家がないか、けが人がいないかをチェックするため全戸を見回った。

▶エレベーターの運行を停止しようとしたが、人が閉じ込められていたことがわかり、救援の連絡をした。

▶高架水槽が損壊し、生活用水がストップ。近くの中学校から皆でバケツやポリ容器で水汲みに行った。相当な重労働だった。

▶地下貯水槽を一部改造し、飲料水をくみ出した。高齢者や体力のない人の手助けをして水を運んだ。

▶お互いに協力しあうことで、次第に住民同士のコミュニケーションが活発になった。

▶緊急対策の様子や行政の対応内容を掲示したり、情報をまとめた広報紙を作って掲示した。

▶緊急理事会を開いて、被害状況を報告し、マンションの復興計画について検討を始めた。

▶緊急総会で震災復興工事を決定し、工事を行った。

■エレベーターの復旧

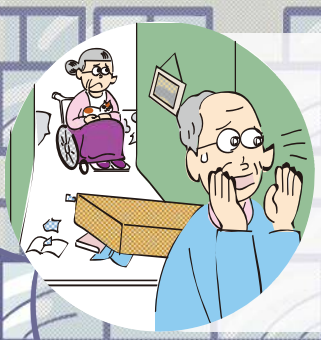
平成23年3月に起こった東日本大震災では、多くのエレベーターが停止しました。（社）高層住宅管理業協会が、仙台市と周辺の 102 棟で行ったアンケート調査では、102 棟全てのエレベーターが停止し、当日復旧が3件、大半は復旧に2～3日かかりました。

地震発生直後～数時間後

エレベーターが停止している

▼

閉じ込められている人がいないか確認する。



移動が困難で、自力で地上まで避難するのが難しい

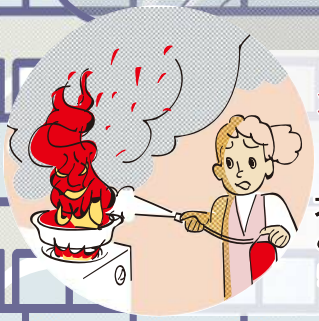
▼

大きな声や笛の音で助けを求め、周囲に手助けをしてもらって避難する。

玄関のドアが開かない

▼

避難ハッチから降りる。



火災が発生する

▼

大声で「火事だー！」と周りに知らせながら初期消火する。

家具が転倒して下敷きになっている人がいる

ドアが変形して出られない人がいる

▶ 協力し合って救出する。けがをしていたら手当をする。